



日本歯科新聞 平成30年5月1日

フッ素が知的発達に影響 ミシガン大

母親の尿中フッ素濃度と、彼女から生まれた1〜3歳児の知的発達指数(MDI)は逆相関し、水道水や食塩のフッ素化は小児の知的発達を阻害する可能性がある。ミシガン大学をはじめとする、アメリカ、カナダ、メキシコの内科学、栄養学、環境科学、歯科公衆衛生などの研究者グループが、メキシコで401組の母子を調査したものの。

妊娠時の尿中フッ素濃度と、生まれてきた子供の1〜3歳までの知的発達との関連を追跡したコホート研究。

Occupational & Environmental Medicine 誌が3月に論文掲載した。

同グループは、昨年9月にも、同じく、母体のフッ素曝露と子供の知的発達について発表し、今回は、その追加研究。